

南会津のうらみニュース

第69号 平成16年 2月10日発行
福島県南会津農林事務所



今月の内容：今月のトピックス／南会津再発見（南郷村の早乙女踊り）／私と南会津（神奈川県横須賀市・中野善次さん）／特集！（南会津地方の農業振興にかける熱き思い）

今月のトピックス

南郷トマト生産組合総会 （南郷トマト表彰）

南郷村のさゆり会館において、平成16年2月6日に南郷トマト生産組合総会が開催されました。総会の目玉は、平成15年度に収量、品質、栽培面積ともに優秀な成績を収めた生産者を讃える南郷トマト表彰式です。この表彰は、南郷トマトが日本一の産地を目指し、生産者の生産意欲と技術向上を奨励するために毎年実施されており、栽培面積、反収(kg/10a)、品質(A級率)の3項目を点数化しその合計点が高い順に上位の賞が授与されます。

今年度の特筆すべき点は、最も優れた生産者へ贈られる、農協組合長賞・県知事賞を栽培歴2年の菊地克明さんが受賞したことです。菊地さんは、平成13年度に南郷村へトマト栽培の新規参入者としてご家族で移住され、それまでは、全く農業と無縁の業種で社員



をされておりました。菊地さんのこの快挙は、来年度から栽培を始める方やこれから新規参入してくる方々へ「やればできる」という夢と希望を与えるとともに、今までの生産者へ「負けてはいられない」という刺激を与え、産地の発展へ大きく貢献するものではないでしょうか。

表彰された皆様、おめでとうございます。

表：平成15年度南郷トマト表彰者一覧（敬称略）

賞名	表彰者名	賞名	表彰者名
農協組合長賞・県知事賞	菊地 克明	トマト生産組合長賞	馬場 武正
町村長賞 南郷・市場賞（豊島青果）	酒井 仁平		山内 啓太
全農福島県本部長賞・市場賞（シティ青果）	吉津 哲雄		馬場 内豊
振興協議会長賞・農友会長賞	酒井 守		山内 地部
町村長賞 只見町	齋藤 聡		山内 渡部
町村長賞 伊南村	馬場 光由	// 新人賞	山内 敏幸
町村長賞 舘岩村	芳賀 拓也	// シルバー賞	馬場 勇

食品産業と農業との情報交換会

第1回「南会津地方食品産業・農業ニーズマッチング情報交換会」を1月28日（水）に田島町の建設会館で開催しました。これは、食品の原材料を生産する農業と農産物を加工・調理・提供する食品産業とが意見や情報交換を重ねることで、地元農産物の需要と供給を合わせよう（ニーズマッチング）とするものです。

当日は、南会津調理師会会長の湯田宏氏（田島町）を



はじめ、製麺業者、飲食店業者、消費者代表、生産部会、生産団体、関係機関等約30名の出席をいただきました。

今回の交換会に先立ち、事前に南会津管内の食品業者と農業者を対象にアンケートを実施したところ、食品産業サイドからは「農産物を供給できるリストが欲しい。供給できる条件を知りたい。」、農業者サイドからは「地元の食品業者が求めている農産物や、供給を受けたい条件を知りたい。」などの意見がありました。

交換会ではそれらの意見に基づいて進めたところ、

食品産業サイドの「地元の農産物の使用をもっと増やしたいが量が不足している。品質が悪い。価格が高い。」の意見に対し、農業サイドからは「規格等の勉強をしたい。量については天候が影響する。価格については難しい。」などの意見が出されました。

なお、第2回目は3月上旬に開催を予定しています。ぜひ、双方のニーズがマッチングするように話し合いを進めていきたいと思ひます。

(農業振興部)

「ふくみらい」の料理教室開催



「会津地鶏の南風丼」(写真右)

福島県オリジナルのお米「ふくみらい」のおいしい食べ方を皆さんに知っていただこうと、県では県内各地で「ふくみらい料理教室」を開催しておりますが、南会津地方では、去る1月22日に下郷ふれあいセンターで開催しました。

「ふくみらい」は、「中部82号」と「チヨニシキ」という品種を掛け合わせて生まれ、平成13年に県の奨

励品種になった新しいお米です。栽培がしやすく、収量も多く、味や品質も良好な品種です。

料理教室には、地元下郷町を中心に約40名の皆さんが集まりました。講師には館岩村のペンション「ロマネスク」の堀江哲郎さんをお招きし、昨年10月に開催した「ふくみらい料理コンテスト」最優秀賞作の「伊達鶏の南風丼」(白河市・久田一浩さんの作品)を会津地鶏にアレンジした「会津地鶏の南風丼」を始め、やはり会津地鶏を用いた「参鶏湯(さんげたん)風雑炊」、デザートに「ライスプディング・クランベリーソース添え」の3品の作り方を教えていただきました。

堀江さんの楽しいお話で調理しながら、1時間半ほどで料理が出来上がりました。試食は好評で、参加者の皆さんに充分満足していただけたようです。その後、情報交換やアンケートでは、「とても役に立った」、「普段作らない料理を作ることができて良かった」などの声がありました。

これからも「ふくみらい」をよろしくお願ひします。

(農業振興部)

家族経営協定で

いきいき農業へステップアップ!!

男女共同参画社会の実現を農業面でも実現しようと家族経営協定推進セミナーを南郷村と田島町で開催しました。参加者は家族経営協定に関心のある農業者18家族と町村職員、JA職員が両会場で47名でした。

基調講演で福島県男女共同参画審議会委員である室井伸子氏から、「男女共同参画でいきいき農業」と題して講演していただきました。室井氏は、男女共同参画の必要性について「自分は生まれも育ちも、嫁ぎ先も専業農家であり、女性として母親の姿から農家には良いイメージが無かった。あの頃家族経営協定があったら母親も良かったと思う」と話されました。

事例発表では、家族経営協定を締結している田島町の湯田浩仁・恵美夫妻と、南会津管内の締結第1号である南郷村の五十嵐千代吉・民子夫妻に発表していただきました。締結のきっかけは両夫妻とも「農業普及部からの強い勧めで…」と言っておりましたが、締結して良かったこととして、湯田夫妻は「目標収入に向かっ



て経費の削減や作業時間が少しずつ合理化され、締結前は、分かっていることでも出来なかったが、文章にしてみると考え方が変わる」と話されました。五十嵐夫妻は「息子夫婦との4者締結で、経営方針や作業内容について話し合うようになり、作業の段取りがよく、合理化が図られるようになった。また、息子が一生懸命になってきた」と話されました。参加者からは、休日の取り方や給料の支給、締結してどこが変わったか等活発な質問や意見が出され有意義なセミナーとなりました。

(農業普及部)

南郷村の早乙女踊り

(南郷村農林課)

これまで絶えることなく続いてきた早乙女踊りが、去る1月10日とうのす鶴巣地区で行なわれました。大黒柱や座敷の柱にはミツの木にさされたダンゴの花が咲き、「舞いこんだよ、舞いこんだよ」と早乙女と囃子手達が夜遅くまで家々をまわり、村の人たちは正月の行事を楽しみました。古くは旧暦の1月14日に行なわれていましたが、その後新暦の1月14日となり、現在は1月の第2土曜日に行なわれています。

早乙女は、桃色の腰巻に紺色の着物を着け、白い手甲、白足袋をはき、俗に饅頭笠と呼ばれる網笠をかぶり、女子中高生が三人一組となり日の丸をつけた扇子を8の字を描くように繰り返し踊ります。次郎次、



太郎次と呼ばれる道化には、二人一組でモンペ姿にヒョットコ面をつけてほおかむりをした集落の男子高校生や若者が扮し、田起こし等の農作業の仕草を面白おかしく行ないます。

豪雪に閉ざされた農閑期に行なわれるこの民俗芸能は、かつては伊南川流域の各地で豊作を願い行なわれていましたが、大戦中・戦後に中断したところが多いようです。鶴巣地区の早乙女踊りは数少ない継続したものの一つで、今後も伝承されていくことが期待されています。

私と南会津

ふるさととは暖かい ふるさとを思う心 ふるさとへ一人旅

神奈川県横須賀市 中野 善次さん

(下郷町刈林出身)

ふるさと旧栢原町(現下郷町)を後に上京して五十年になります。当時は高度成長前の就職難の時代でしたが、運よく紹介で石油・化学プラント技術会社に就職することができました。以来四十五年サラリーマン生活を大過なく過ごすことができました。

当時は栢原からの交通機関は会津線、磐越西線のSLを利用しての上京です。その時お袋の作ってくれた「おにぎり」や「五目ごはん」は今でも忘れることはできません。

会津線の思い出としては、昭和四十一年十二月、会津地方は豪雪となり、乗っていたSLは急勾配を登れず停車してしまい、車掌がアナウンスで「自然停車です。」と言ったことが思い出されます。

現在帰省するときは、ほとんど東武線を利用しての一人旅が多くなりました。車窓から見る景色は会津に入るほど、春は緑、秋は紅葉、冬は一面銀世界になり、四季それぞれ違いますがいつも新鮮な風景を提供し、心を癒してくれます。

野岩線が開通していない時期には、鬼怒川温泉

からバスで山王峠を經由し、田島に行くルートをよく利用しました。途中の五十里湖、山王峠の風景は電車とはひと味違うすばらしい場所でした。

私は現在、横須賀の鷹取山を開拓した所に住んでおりますが、ここは野鳥保護区域に指定されいろいろな鳥が庭先に来ます。ハイキングコースやロッククライミングの練習場として有名です。海にも近く、海水浴場が近くにあり、環境は良い所です。

都会は田舎と違って近所との深い付き合いはありません。

南会津には多くの名所や郷土民俗芸能等があり、誇りに思っております。県や各町村にもっとPRしていただければありがたいと思います。

田舎には両親がいるため、足は自然に会津に向いているかも知れません。出来るだけふるさとの土を踏もうと思います。

現在「在京下郷会」の幹事長の職をいただき、微力ながら町発展に寄与できればと願っています。

南会津の各ふるさと会の方々と交流の場が増えていますので、ひとつでも多く吸収し貢献できるよう努力していきたく思います。

皆様のあたたかいご支援とご鞭撻をお願いしたいと存じます。





南会津地方の農業振興にかける熱き思い

～JA会津みなみ三瓶組合長に聞く～



平 平成16年度から米政策と水田農業政策が大きく変わろうとしています。現在はそのスタートに向けて、地域の実情に応じ、地域の創意工夫を生かした「地域水田農業ビジョン」の策定が進んでいます。稲作を始めとする地域農業のあるべき姿を示すビジョンとその実現にかける熱い思いを、JA会津みなみ三瓶

藤助組合長にお伺いしました。

○南会津農業発展の柱「地域水田農業ビジョン」

将来にわたって、南会津地方全体の産業を何をもって成り立たせていくのか。私は、常々それは「農業」だと思っています。今回のビジョンは町村それぞれの特性を生かしつつ「地域全体としての産地づくり」の部分でJAを単位とした方向性や具体的な方策を盛り込むことができたと考えています。特に、高冷地の自然条件と首都圏に隣接する立地条件を活かした園芸作物等の産地づくりを強化していくことが重要と考えています。

○稲作の担い手育成と売れる米づくり

さて、地域農業の目指すべき姿や目標を明確にした地域水田農業ビジョンにより、大きく変革しようとしている水田農業についてですが、担い手農家に農地の流動化を進め、水稻に軸足を置く農家も育てていくべきと考えています。当地方では来年度水稻作付面積がやや増加しますが、それを担い手農家にシフトさせていきたいと考えています。

米作りについては、単収をさらに上げるのではなく、適地適作を基本に地元酒造業者と結びついた「夢の香」や「たかねみのり」などの酒米やかけ米の生産、地元出身米穀販売会社と提携した減農薬・減化学肥料栽培生産など、需要に見合った環境にやさしい売れる米づくりを進めていきます。また、稲作のコスト低減も重要であり、農業機械への過剰投資を防ぐため、受託組合等を中心とした作業受委託を促進する体制づくりや直播栽培の団地

化などをもっと進めていきたいと考えています。

○園芸産地の拡大を今後も積極的に推進

南会津地方はなんと言っても南郷トマト、アスパラガス、花き等の園芸産地の拡大が最重点課題であります。南郷トマトは最近、田島町や下郷町など南会津の東部地区でも栽培農家が増加していることから、気象条件を生かして1か月ほど出荷時期を早めるなど、現在33haの面積を45haに拡大し、今年度竣工を予定している新選果場により高品質のトマトを出荷していきたいと考えています。アスパラガスについては、平成17年ごろには会津地方全体をカバーする選果場が設置される予定ですので、栽培面積の多い農家は多いに活用して、余力を生産の拡大に費やしていただきたいと思います。花きについては、昨年よりカスミソウの出荷が一元化できるようになりました。これはJAの合併が功を奏したものと考えております。また、今年度から始めた産直事業についても新たな流通を通じて地域がさらに活性化することを目標に進めていきたいと思っています。

○誇りをもって営農に取り組む担い手の育成

それから、肝心の南会津地方の農業を支える担い手作りですが、私は指導農業士をしたこともあり思うのですが、後継者というものは急にできるものではありません。優秀な人材が外に出ていくことなく、地元に残るような取組みをしていくことが重要で、家庭や学校、社会全体がそういう教育をしていく必要があります。大切なことは、農業に誇りを持てるようにすること、収入を上げパートナーを持てるようにすること、また、農業者大学校等で学ぶ機会を持たせ、外から地元を見る目を持たせることだと思います。特に新規就農者には農業で目に見える収入を上げさせることが重要であり、家族経営協定などで自立心を養いながら経営力を身に付けていくことも大事なことであります。

「困った」だけでは前進しません。今後とも、生産者の皆様とともに物事を前向きに考え、南会津の農業を更に良くしていきたいと考えております。

(農業振興部)



あて先 〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

E-mail minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真

雪の大内宿

(下郷町大内)

撮影：上妻



古紙配合率100%再生紙を使用しています。

この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。

